

日本学術会議 公開シンポジウム 2015年10月9日

環境学から俯瞰する エネルギー問題

— エネルギー問題と並行して国土の再編成 —

吉田英生

京都大学 工学研究科 航空宇宙工学専攻

sakura@hideoyoshida.com

www.wattandedison.com

これが同じ日本か！（東北視察直後）

南相馬から70キロほど山道を通って福島市に出て、東北高速道路を東京に向けひた走る。あたりは暗く前方の車のテールランプのみがずっと見えていた。しかし、首都高速川口線で荒川を渡るとき（江北ジャンクション付近）に突如浮かび上がった東京の高層マンション群の豪華な夜景！

これが同じ日本か！
と思わずつぶやく。

1日目に800キロ、2日目に500キロ、合わせて1,300キロの旅を終えて強く感じるのは、月並みな表現ではあるが、**同じ日本という国の中に、いまだにとてつもない苦難に陥ったままの地域と、いまだにかつてからの豊かさの中に居続ける地域とが同居しているということである。**

吉田英生：岩手、宮城、福島、そして東京（2012年11月）

http://wattandedison.com/iwate_miyagi_fukushima_and_tokyo.pdf

過疎の田舎（京都府船井郡の例）



**住民は年寄りのみ、小学校は廃校、山はただでも貰手なしで
森林は荒れ放題、寺の住職によると木は一本3000円で伐採**

人間力学の第一・第二法則（日本版）

第一法則（欲望増加則）

エネルギーが保存される自然界とは異なり、現代人間は果てしない可能性と豊かさを求めて、その欲望は際限なく増加する（いつかはクラウン—どころでなく）。

第二法則（都会集中則）

拡散して平衡状態に落ち着く自然界とは異なり、これからの人達は都会（とりわけ東京）を目指して集中する（情報は瞬間的に拡散する時代にもかかわらず）。

自分自身が田舎から都会に出て来た一人なので、偉そうなことは言えないが、この現象を抑制する自然な駆動力はなかなか存在しない。

偏り、荒れる国土

都市部

人はますます集中、富も集中投下
エネルギー使用総量は不可避免的に増加
空き地は再開発という空間余裕喪失で減災困難

地方部

車なしでは成り立たず、歩行者や自転車は少ない
日常のレジャーは大規模スーパーでの買物や飲食

山間部（村の平野部を含む）

お年寄りのみが居住
緑は残るが、農業や林業は存亡の危機

海浜部

漁業は、上記の農業や林業に比べればそこそこ？

エネルギー問題と並行して国土の再編成

- 前述の偏りと荒廃は、わが国にとって最重要問題の一つ、速効策も困難（陽には見えない国債）
- いきなり過疎対策に向かうのは困難だが、まずは都市部への集中を地方部での定着促進により抑制することは必須
- 地方部に都市部にもまさる魅力を付与するため、文化的・福祉的メリットに加え環境的・エネルギー的メリットを総力戦で創出
- なお、環境で見落とされがちなのが景観ではなかろうか？ 幹線道路沿いに原色の量販店が建ち並び、電柱には雑多な広告が貼られるような故郷を人々は愛しみ永住の地とできるだろうか？